

1 研究開発プロジェクト名:

漢方薬の予防医学領域への展開による高齢者の健康増進

2 当該年度の研究開発プロジェクト実施予定期間:

2017年4月1日から2021年3月31日 / 4年計画の2年目

3 応募者

氏名	諸田 隆
所属機関	株式会社ツムラ
所属部局	生産本部 CMC 開発研究所
職名	主席研究員

4 研究開発プロジェクトの概要

加齢・老化の心身への影響は、精神的、肉体的な自由な活動の制限によるQOLの低下に留まらず、重症化による本人の苦痛や負担もさることながら、介護負担の増大も招くことで大きな社会問題となっている。例えば、加齢等による虚弱状態：フレイルは、医学的に積極的な治療対象ではないが、その状態を放置すれば、やがて要介護等の自立不能な状態に陥ることを意味している。従って、その予防、進行抑制および回復を図って健康寿命期間の延伸を企図することは、直面する超高齢化社会における非常に重要な課題の一つである。

漢方医学においては、病気ではないが健康ではない状態を「未病」とよび、「未病」の放置により疾病へと移行しないように治療が施される。まだ研究の途上ではあるが、漢方薬にはフレイルに対する回復や進行抑制効果が報告されつつあり、超高齢化社会に向けた健康長寿の延伸に有効な可能性が示唆されている。しかし、漢方薬は病名ではなく、患者の体全体の恒常性の乱れを総合的に判断する、いわばテーラーメイドの処方であることから、その利用には専門知識が必要とされる。今後、臨床エビデンスを集積して漢方薬を高齢者の健康増進に活用するためには、患者像と各種漢方薬の関係を明らかとし、専門知識がなくとも広く漢方薬を活用できるようにしなくてはならない。

本プロジェクトは、我が国の全ての医師が漢方薬を利用しやすい状況にするとともに、更に進んで国民自身がセルフケアもしやすい状況を作り、漢方薬、生薬を用いた予防医学の充実で高齢者の健康増進（健康長寿）を図ることを目的とする。

本プロジェクトの目的を達成するためには、フィジカル空間及び、サイバー空間にある膨大な漢方治療情報のマイニングを実施し、どのような健康状態、病態にどのような漢方薬（生薬）が適応するかを客観的に示すことが必要となる。このようなトライアルは、現状でも精力的に実施されているが、医療用だけでも148種類の漢方製剤があり、精度の高い解析には更に大きなデータ集団が求められる。

しかし、本邦においては、医療用医薬品市場に占める漢方製剤の金額シェアは1.5%程度であり、普及が進んでいるとは言い難いのが実情である。これは、上記のように治療現場において漢方薬の選択に専門知識が必要なことも要因ではあるが、西洋薬に比して服薬量や味といった服用性の悪さも普及の障害となっている。実際に漢方製剤は一回の服用量も多く、一部を除けば殆どが顆粒剤であり、高齢者や嚥下障害のある患者には服用が難しいという欠点があり、その改善が強く望まれている。医療用医薬品の剤形の改良や追加には、さまざまな規制が存在するが、本プロジェクトにおいてはこのハードルの克服も視野に入れ、どのような患者層でも服用しやすい新剤形の開発を漢方治療データの蓄積に対する重要な初期戦術の一つとして位置付けて実行する。

将来においては、蓄積された漢方治療に関する多様な理論的、経験的な「知」を解析・統合することによって論理的なデータベースとし、これをネットワーク化、ITで活用することによって、どの地域においても容易に医療情報データの入手が可能な状況とする。これにより、専門医が存在しない医療過疎の地域であっても漢方、生薬を用いた治療が容易に受けら

れる状況となり、高齢者の健康増進に寄与することとなる。更に1剤でも多愁訴に対応できるという漢方薬の特色から、多剤併用による副作用の軽減や医療経済的な効果も期待できる。